

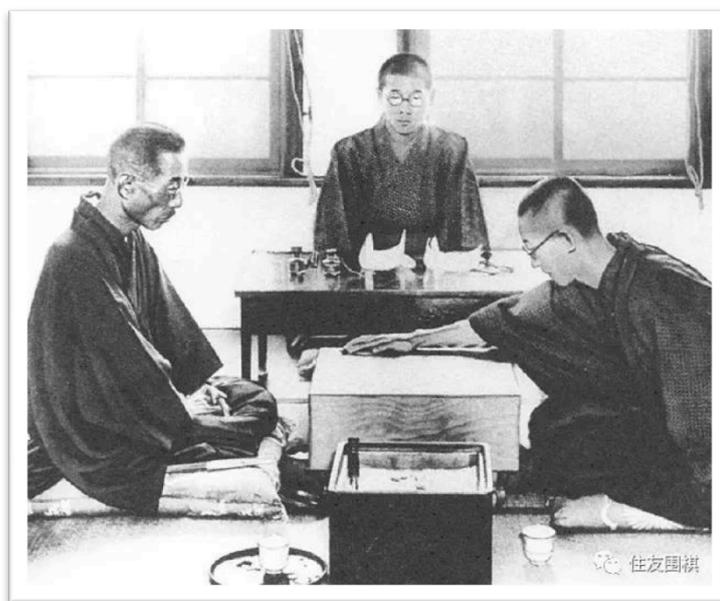
囲碁ぶらり散歩

長房囲碁同好会 池口隆久

東京学芸大学・英語科に入学し、同級生の阿部さんと二人、指導教官の羽染竹一先生に、大泉のお宅に招かれました。相手は大学の先生ですから、二人とも初めはかなり緊張していましたが、先生はお酒を少しすすめてくださり、専門の英語の話はそっちのけにして、「囲碁は覚えていたほうがいいよ」と、碁盤を出して、二人に囲碁の手解きをしてくださいました。この時どういう話があったのか覚えていません。簡単なルールを教わったのだと思います。かなり経ったある日、本屋で囲碁の本を買いました。「高等囲碁講座・布石法」本因坊高川格著 {修道社)。今でもこの本は書棚の隅にあります。

府中工業高校に勤めると、校長の佐藤忠男氏が碁の高段者でした。校内では囲碁が盛んで、放課後になると、進路指導室で囲碁をやりに来る教員がいました。数学の山本先生、物理の川辺先生、機械の中本先生、社会の奥山先生、もちろん私もそのうちの一人でした。日曜日と夏休みは、西八王子の碁会所を兼ねていた乙媛旅館にでかけて、院生上がりで八段格の上野先生に手解きを受けました。

20分ぐらい置き碁の型を教わるとそれを碁罫紙に赤(白)、青(黒)で書き写しそれを渡して下さり「はい、300円」でした。当時は、山中さん、館主の鹿島さん、青柳さんなどが常連でした。上野先生の出張教授に必ず同行していた川村さんに後に出会いました。きっかけは、長男が通っている第二小学校の校長先生が警備員の川村



呉清源と秀哉名人との対局

さんを「碁の名人です」と紹介してくださったのを、家内が保護者会で聞いてきたからなのです。私は、早速川村さんに会いに出掛けました。

警備員の宿直室へ通されて、乙媛以来の再会を喜びましたが、部屋の中を見渡して驚きましたね。和紙・和綴じの囲碁の打ち碁集が山積みなのです。30冊はくだらないとみました。彼は、道策、丈和、秀和、秀策、秀哉などの本因坊の全集を集めていたのだらうと推測いたします。もちろん碁の相手もしてもらいましたが、五子でも歯が立ちませんでした。彼の強いところは、この相手なら分からないだらう、というようなごまかしの石は打たないのです。いつも正着を考えているのです。20年後、保健福祉センターで再び出会いました。「もう勉強しつくしたでしょうから、あの打ち碁集を譲ってくれませんか」と水を向けてみましたが、彼は無言でした。あれは彼の宝物だったのでしょうか。その後、暫く会わないなと思っていたら、風の便りに彼はもう亡くなったようだと知りました。

私は、古本屋で本因坊秀哉全集と本因坊秀策全集を偶然見つけて手に入れました。もちろん値切って買いました。古本屋では値切って買ったほうがいいのです。向こうも理屈は言いますが、結局はまけてくれます。まけて売っても儲か



呉清源と木谷實との対局

っているから、腹の中ではしめたと喜ぶのです。まけても売っておけば、このお客さんはまた来てく

れますから、かえてそのほうが儲かるのです。秀策は並べてみると、わかりやすい打ち方をしているのが分かります。川村さんが最後に会った時にいいました。「最近秀哉が見直されているそうですね」と。

呉清源がNHKに出演して「21世紀の打ち方」を紹介したときの解説本とビデオは繰り返し観ては勉強しています。呉清源「21世紀の碁」誠文堂新光社刊(全10巻)も所蔵していますが、これは山積みにしたままです。「呉清源打ち碁集」

平凡社(全4巻)も持っていますが、これは辞典みたいなもので、彼の打碁が話題になったときに、取り出して調べる程度にしています。ですがとても全部並びきれぬものではありません。根気が続かないのです。面白いのは、興味をそそられます。秀哉名人と雁金準一との息詰まる対局も興味あります。

「方円新法」村瀬秀甫編著(教育社)という本があります。これも古本屋で偶然見つけた貴重な本です。この本に収められている秀甫と秀和との十番碁、秀甫と秀策との十番碁は繰り返し並べてみたい打碁ではあります。ちなみに、村瀬秀甫は天保9年(生年)から明治19年(逝去)までの、幕末・明治初頭を代表する碁打ちの一人です。当時の第一人者といっても過言ではないでしょう。

(2019年5月3日)

